



未来へのチャンス： ASEANの挑戦と成長

法政大学

グローバル教養学部 (GIS)

准教授：EYO, Shiao Jia (イヨシャオジャ)

本日の内容

- なぜ今、ASEANなのか？
- ASEANにおける課題とビジネスチャンス
- ASEANの文化とマインドセット
- 成功事例紹介
- 質疑応答



なぜASEANなのか？



なぜASEANなのか？

1) 市場規模：7億人のパワー



- 2026年には人口が約7億500万人に達すると予測されている。
- 2030年までに人口の65%が中間層になると予想されており、自由裁量所得が大幅に拡大する。

なぜASEANなのか？

2) 人口動態：若さあふれる市場

- 中央値年齢は**32歳**
- 2025/2026年時点の中央値年齢（推計）：**マレーシア：約30.3歳, インドネシア：約31.5歳, タイ：約40.1歳, フィリピン：約25.7歳**
- この若い労働力・消費者が、生産と消費の両面で成長を牽引する。

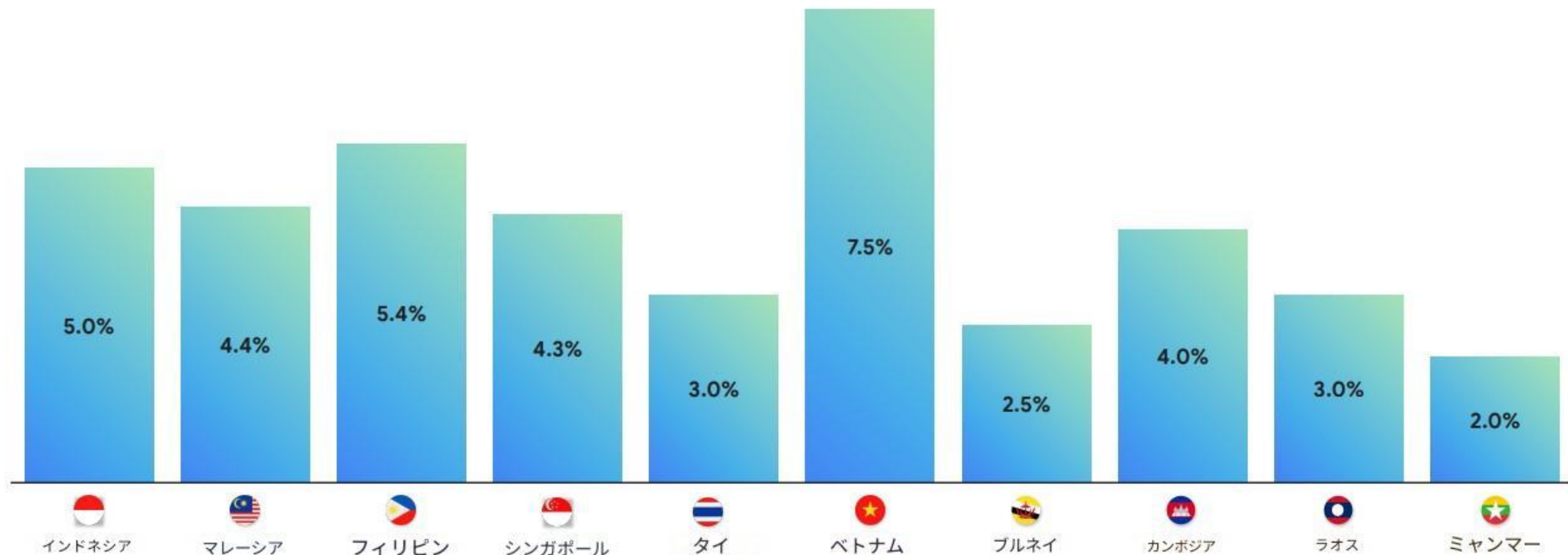


なぜASEANなののか？

3) 経済成長

- 主要6カ国のGDP成長率：2024年は4.6%、2025-2026年は**平均4.8%**と予測されている。(参考: 他国の予測成長率：中国 4%、日本 1.1%)

実質GDP成長率（前年比）



なぜASEANなのか？

世界経済における立ち位置

ASEANは現在、世界第5位の経済圏。2030年までにはアメリカ、中国、インドに次ぐ「世界第4位」に浮上する見通し。



なぜASEANなのか？

4) サプライチェーンの転換

- 「**チャイナ・プラス・ワン**」戦略: コスト管理と地政学リスク回避のため、企業が拠点をASEANへ移転している。
- **製造業の平均時給比較** : 中国の約6.50ドルに対し、ベトナムは約3ドル、インドネシアは約2.80ドル
- **各国で構築されるエコシステム** :
 - ベトナム : 電子機器ハブ (サムスン、アップルなど)。
 - マレーシア : 半導体後工程の重要拠点 (世界の後工程・パッケージングの13%を占める)。
 - タイ : かつての「東洋のデトロイト」から、現在は電気自動車 (EV) 生産拠点へ急速に転換中。

ASEANの課題とチャンス

1) デジタル変革とリープフロッグ：

- 東南アジア諸国は、固定電話→PC→インターネット→モバイルという従来の発展段階を飛び越えた。
- 直接、モバイルを主軸とした高度なデジタルソリューションへと移行した。この現象を「**リープフロッグ**」と呼ぶ。



ASEANの課題とチャンス

- デジタル経済の現状: 人口の約75%がユーザーですが、そのうち90%が主にスマートフォンから接続している。
- これにより、単一のエコシステムで完結する「スーパーアプリ現象」が起きている。

- Grab (シンガポール/広域展開)
- Gojek (インドネシア)
- Shopee/Sea (広域展開)



- ASEANのデジタル経済規模は、2025年末までに総流通額（GMV）ベースで3,300億ドルに達し、年平均成長率は約20%となる見込み。

ASEANの課題とチャンス

デジタル変革のチャンス:

➤ 以下の分野におけるアプリ需要:

1
Eコマース


マーケットプレイス
消費者直販
食料品
ビデオコマース



2
食品配達



3
交通



4
オンライン旅行

航空券
ホテル
パッケージレンタル



5
オンラインメディア

広告
ゲーム
ビデオオンデマンド
ミュージックオンデマンド



6
金融サービス

決済
融資
資産
保険



ASEANの課題とチャンス

2) 都市化とインフラ・ギャップ:

- 現在、人口の50%が都市部に居住。2030→56%に上昇する見込み。
- 2030年までに、さらに9,000万人が都市へ流入すると予測されています（人口20万～200万人規模の都市を含む）。



ASEANの課題とチャンス

都市化におけるビジネスチャンス:

- インフラ整備、住宅、教育機関、スマートシティ・ソリューション、近代的な小売業（モダンリテール）への需要。



ASEANの課題とチャンス

3) デジタル・リテラシーの格差

- 読み書きの識字率は高い：主要6カ国の平均は96.6%
- しかし、デジタルおよび実用的なリテラシーはまだ低いのが現状です：
 - 若年層（16～35歳）のうち、現代の労働環境で求められる「高度なデジタルスキル（コーディング、データ分析、AI等）」を持っていると感じているのはわずか35%です。
- 中小企業（SME）の50%以上が、クラウド会計やデジタルマーケティングを効果的に使いこなすリテラシーが不足しており、デジタル化に苦戦しています

ASEANの課題とチャンス

デジタル・リテラシー格差におけるチャンス:

- 職業訓練、サイバーセキュリティ教育、コーディング・ブートキャンプ、リスキリング・プラットフォーム、金融リテラシー向上ツールへの需要



ASEANの課題とチャンス

4) プラスチック危機（廃棄物管理）

- UNEPによると低中所得国では、**プラスチック廃棄物の約70%が不適切に処理されている**（野焼き、不法投棄、河川への流出など）。
- ベトナムとインドネシアは、海洋プラスチック汚染のワースト上位国となっている。
- OECDによると**ASEANのプラスチックリサイクル率は約12%に留まる**。(参考:日本のリサイクル率:プラスチック 約87%、紙 約81.7%)



ASEANの課題とチャンス

廃棄物管理におけるチャンス:

- **ASEANは持続可能性とESG**（環境・社会・ガバナンス）に注力している。
- 各国がネットゼロ目標を設定：シンガポール、マレーシア、ベトナム（2050年）、インドネシア、タイ（2060年）。
- **循環型経済技術**：廃棄物発電、資源回収、リサイクル技術への高い需要。



ASEANの文化とマインドセット

1) 宗教

- ASEANは単一の文化圏ではなく、多様な宗教や信仰が混在している。
 - インドネシア・マレーシア：イスラム教徒が多数派。ハラール、ハラームへの配慮が不可欠。
 - 礼拝の時間、ラマダン断食)



ASEANの文化とマインドセット

宗教

- シンガポール：非常に多角的。仏教（31%）が最多で、キリスト教、イスラム教、ヒンドゥー教が続く。
- タイ：熱心な仏教国（約93%）。他者への配慮を意味する「クレンジャイ」の精神に影響を与えている。
- ベトナム：儒教や仏教の教えに基づく「階層（序列）や教育」への強い重視が見られる。



ASEANの文化とマインドセット

2) 言語

- 英語は唯一の公式な実務言語。
- 地域にはインドネシア語、マレー語、中国語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語など。
- 2026年現在、テックハブを中心に使われる「デジタル・イングリッシュ（簡潔でテクニカルな英語）」が、越境スタートアップの共通言語になりつつある。



ASEANの文化とマインドセット

3) ハイコンテクスト文化

- 非言語的な表現や、間接的な言い回しを重視する。
- 円滑で調和のとれた関係を維持することがコミュニケーションの目的。
- 相手の「メンツ」を保ち、相互の敬意と配慮を重んじるスタイル。
- 最初の対面が、会社の全体的な印象を左右する極めて重要な機会となる。





ASEANの文化とマインドセット

4) 関係構築

- 欧米：関係を築くために契約を結ぶ。ASEAN：契約を結ぶために、まず関係を築く。
- 交流も仕事のうち：ビジネスは個人的な信頼に基づく（食事、ゴルフ、接待など）。
- 階層意識：年長者や役職への敬意。
- 交渉スタイル：交渉は直線的ではなく、循環的に進む。合意済みの点も、関係性を確かめるために再度取り上げられることがある。成功の鍵は「忍耐」。

ASEANの文化とマインドセット

4) ビジネス慣行

- 日本企業が「職人（匠）精神」なら、ASEAN企業は「スタートアップ精神」。
- 日本：長く続くものを作る（Build-to-Last）、ASEAN：まず試すために作る（Build-to-Test）。
- **実用最小限の製品マインドセット** 
- ASEAN市場では「完璧だが遅い」よりも、「十分な品質で、かつ速い」ことが優先される。

事例紹介 : Toy Eight

Toy Eight (トイエイト)

<https://www.toyeight.com/about>

- マレーシアの社会課題を解決するために、現地に根ざした展開を行っている日本のAIエドテック企業。
- ミッション：3～6歳児を対象に、才能の発見や発達の遅れを早期に特定する「安価で利用しやすいスクリーニング検査」を提供すること。
- 2020年5月設立



事例紹介 : Toy Eight

- 収益モデル: フィジカル（物理＋デジタル）モデルによる収益化
- 遊び場（Playground）：
チケット収入を得るだけでなく、スクリーニングサービスのマーケティング拠点としても機能。



事例紹介 : Toy Eight

- B2Bライセンス：アルゴリズムを用いた検査ツールを私立幼稚園やクリニックに提供し、安定的な収入を確保。
- 創業者：ASEANに深い知見を持つ日本人。
- チーム：元任天堂のデザイナーと現地スタッフ。
- 評価：ASEAN Startup Awardを受賞。ESGに合致する事業としてインパクト投資家からも注目されている。



Masaki Ishibashi
Co-founder & Co-CEO



Shun Matsuzaka
Co-founder & Co-CEO



Yuki Murakami
Product & Service Design Director



Hideki Ueno
Technology Director



Toshihiro Setojima
Technology Manager



Sze Yu Lee
Senior Technical Manager



Issei Nonaka
Business Development Director



Takeo Miyoshi
Clinical Developmental Psychologist



Grace How
Community and Partnerships Manager



Annabelle Chan
Playground Operation Crew Lead



Angela Chan
Playground Operation Crew Lead



Krystabel Kok
Creative Strategist



Tobey Low
Head of Early Childhood Development



Chui Yee Chong
Child Development Support Manager

事例紹介 : Toy Eight



Toybox Creations co-founder and CEO Masaki Ishibashi (left) received the award in Vientiane.

事例紹介 : Toy Eight

なぜマレーシアなのか？

- **中所得国のチャンス**：高まる早期発育への関心と需要、言語聴覚士や心理士などの専門家が不足しており、病院での診断に数ヶ月待ちの状態。
- **多言語テストの場**：多様な人口 (マレー人、中国人、インド人) により、複数の言語で同時にアルゴリズムをテストできる。
- **産学連携**：サンウェイ大学やマラヤ大学と提携し、マレーシアの子供たちの発達に合わせたデータ調整を実施。
- **政府の支援**：外資スタートアップの支援「GKL Live Lab」に参画

<https://www.investkl.gov.my/our-initiatives/gkl-live-lab>

事例紹介 : Toy Eight

Toy Eightから学ぶ教訓:

- 「Build-to-Test」アプローチ：完璧な医療機器を開発するのではなく、まずはスマートフォンアプリから展開。
- 徹底したローカライズ：単なる翻訳ではなく、遊びや玩具の内容をASEANの文化に適合させた。
- パートナーシップの構築
 - B2G（政府連携）：サラワク州政府との協力
 - B2B（企業連携）：大手クリニック（Qualitas Health）やインドネシアのLippoグループとの提携
- リバーズ・イノベーション：マレーシアで培ったデータとスピード感を活かし、より効率的なモデルを将来的に日本へ逆輸入することを目指している。

事例紹介：Toy Eight

デジタル技術が変える発達健診 マレーシアから

Dec 20, 2025

毎日新聞

マレーシア東部のサラワク州にある初年度に2025年5月、ダンスの女の子、サウチンが入学した。それまでは母に「向うは公立の療育センターに通っていたが、子育てのハードの面立に苦しめるシングルマザーの母親にはそれが構いづらい。もっと療育を受けられる機会があればいい」と、フルタイムで働けば家計が安定することも分かってはいたが、「幼稚園に受け入れもえない」と、はなから断っていた。

マレーシアを含めた東南アジア地域では、サラチンのように発達障害がある子供たちが、適切な支援を受けられないまま、待機状態になっているケースが少なくない。近年、「自閉スペクトラム症(ASD)」や「注意欠陥多動性障害(ADHD)」、学習障害(LD)などの発達障害に関する認識が広がったことで、診断を求める保護者が増えた。一方で、公的な保健制度が不十分だったり、専門人材の不足から療育を受けられる施設が限られていたりするためだ。

サラワク州も例外ではない。自閉スペクトラム症の飛行機で時差ぼけのボルネオ島北部に位置し、北海軍と九州を合わせたほどの広大な面積を持つ州では国内最大だ。オランウータンも生息する自然豊かな自治体は、地理的な不向きによる医療格差に直面してきた。子供の発達障害に気づける専門家の数も限られ、検査を受けるまでに6カ月以上待つ子供もいたという。大切だとわかった早期発見と「自閉介入」が課題になっていた。

人材不足にスマホ

そこで州政府が今年4月から取り組んでいるのが、東京に本社を置く研究開発ベンチャー「トイエイト」が提供するアプリを使ったフロニエックだ。スマートフォンがあれば、専門家とその場になくてもデジタル技術を活用して発達健診ができ、子供の発達に合わせた個別学習プログラムが作成される。国立マラヤ大学でも共同研究に加わり、日本財団が提供する「療育センター」での使われた実績を

Sunday Column
武内 彩
アジア総局長

デジタル技術が変える発達健診

トイエイトは、子供の発達障害の早期発見と適切な支援を目的として、スマートフォンで発達健診ができるアプリを開発した。アプリは、子供の発達障害の早期発見と適切な支援を目的として、スマートフォンで発達健診ができるアプリを開発した。アプリは、子供の発達障害の早期発見と適切な支援を目的として、スマートフォンで発達健診ができるアプリを開発した。

マレー

子供を受け入れられるアプリを使ったトイエイトは、子供の発達障害の早期発見と適切な支援を目的として、スマートフォンで発達健診ができるアプリを開発した。アプリは、子供の発達障害の早期発見と適切な支援を目的として、スマートフォンで発達健診ができるアプリを開発した。

事例紹介：Toy Eight

JETRO

日本貿易振興機構(ジェトロ)

海外ビジネス情報

ジェトロのサービス

国・地域別に見る

目的別に見る

産業別に見る

ビジネス短信 - ジェトロの海外ニュース > トイエイト、インドネシア最大規模の教育機関にデジタル発達健診を提供、PHCと契約

ビジネス短信

ビジネス短信のコンテンツ一覧

トイエイト、インドネシア最大規模の教育機関にデジタル発達健診を提供、PHCと契約

(インドネシア)



ジャカルタ発

2026年01月16日

デジタル発達健診を手掛けるToy Eight（トイエイト）は、インドネシアの療育サポート事業者Pembaharuan Hidup Cemerlang（PHC）と連携し、同国最大規模の学校法人Yayasan Pendidikan Pelita Harapan（YPPH）が運営する幼稚園で、2026年度の入学前準備プログラムに向けたデジタル健診の運用を開始した。同社の石橋正樹最高経営責任者（CEO）は、PHCのマスタートレーナー向け認証トレーニングと教員向け研修を終えたと、ジェトロのインタビュー（実施日1月12日）で明らかに

まとめ

- ASEAN市場：課題はあるが、それ以上のチャンスがある。
- 成功の鍵：現地の文化とマインドセットの理解。
- 支援機関の活用：JETRO、S-Cube、日本アセアンセンター等。
- 挑戦を始めるのに遅すぎることはない。決して諦めないこと。

参考文献

1. ASEAN+3 Macroeconomic Research Office (AMRO). (2025). ASEAN+3 regional economic outlook 2025. <https://amro-asia.org/publications/annual-reports-and-outlook/asean3-regional-economic-outlook-2025/>
2. Google, Temasek, & Bain & Company. (2024). e-Conomy SEA 2024: Profits on the rise, fueling Southeast Asia's digital economy. <https://economysea.withgoogle.com/>
3. Ministry of Investment, Trade and Industry (MITI). (2023). New Industrial Master Plan (NIMP) 2030: Leading Malaysia into the next manufacturing frontier. <https://www.miti.gov.my/index.php/pages/view/nimp2030>
4. Mordor Intelligence. (2026). Online language learning market - Size, share, & industry analysis (2026-2031). <https://www.mordorintelligence.com/industry-reports/online-language-learning-market>
5. Sunway University. (2025). Toy Eight: Revolutionising child developmental screening through AI and local partnerships. Sunway Innovation Labs (iLabs). <https://innovationlabs.sunway.edu.my/>
6. Toy Eight. (n.d.). Empowering children's potential through AI and play. Retrieved February 19, 2026, from <https://toyeight.com/>
7. United Nations Environment Programme. (2024). Global waste management outlook 2024: Beyond an age of waste – Turning rubbish into a resource. <https://www.unep.org/resources/report/global-waste-management-outlook-2024>

質疑応答



ご清聴ありがとうございました。